

企業名： アステラス製薬会社

レポート名： アニュアルレポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

アステラス製薬会社は研究開発志向型の企業として、革新的な新薬と自社の強みを活かした医療ソリューションを提供している。同社が目指す姿は、社会の一員として環境問題に向き合いながら、新しい治療法や治療薬の研究開発をし、社会の持続可能性に貢献できるような会社である。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

アステラス製薬会社は 1923 年創業の山之内製薬と 1894 創業の藤沢薬品工業が合併した会社で、それぞれの強みである泌尿器領域と移植・免疫領域、合成技術と発酵技術を持っている。現在は世界各地で事業を展開しており、グローバル企業となっている。

競争における優位性は主に二つに分けられる。

一つ目は、がん治療薬の付加価値および代替不可能性である。同社は大学や研究所など外部のパートナーと連携し、がん免疫の研究に取り組んでいる。また、世界の主要な学術機関やバイオテクノロジー企業とも連携し、がん免疫における治療薬の開発を進めており、イクスタンジ®、ゾスパタ®、PADCEV®を始め、多くの付加価値の高い治療薬をグローバル市場で発売している。

二つ目は、多様な人材の活躍である。同社は、人種・国籍・性別・年齢を問わず多様な人材が活躍できるよう、ダイバーシティの推進に取り組んでおり、各地域の現状に即したダイバーシティ推進策を実施している。他地域に比べて経営基幹職に占める女性の割合が低い日本では、女性の活躍推進を優先課題と位置付けており、職場・上司・女性の意識や行動の変革を促進していく「チェンジ・マネジメント」と、業務プロセスや人事制度の仕組み・運用などの「枠組み改革」の両方を同時に推進してきた。全てのポジションにおいて、同社で働く女性がやりがいを持って働き、ジェンダーに関わらず活躍できるよう取り組んでいる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

がんの完治が難しい現在、その治療薬の開発や研究における優位競争性には持続性があると考えられる。また、同社はがん免疫以外、細胞医療や遺伝子治療を活用する「再生と視力の維持・回復技術」の進化、老化に関わるプロセスにおいて重要な役割を果たすミトコンドリアの研究、強い副作用や感染症に罹るリスクが伴う従来のステロイド治療法をより安全かつ有効にする免疫ホメオスタシスの開発にも取り組んでいる。いずれも成功したら医療業界を震撼させるような事業であり、持続性があると考えられる。

人材の多様化の競争優位性に関しては、日本では外国人新卒者の採用、障害者の就労環境整

備や働き方改革などグローバル化に応じ、次々に変革を図ることから、持続性があるといえるだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人的資本の価値向上を果たすには、人材の適材適所、知と経験のダイバーシティ、リスキル・学び直し、従業員エンゲージメント、働き方改革などが必要な要素とされている。

アステラス製薬会社は、全従業員に要件を満たせば興味のあるポジションに立候補することができるジョブポスティングシステムを採用しており、社員一人ひとりが高い生産性を発揮できる働き方の実践に取り組んでいる。また、世界各国の人材市場から人材を公平・公正に獲得できる人事制度を構築しているだけでなく、グローバル共通システムに一元化した社員研修制度を設けており、人的資本の価値向上に積極的に力を入れている。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

アステラス製薬会社の統合報告書は 187 ページに渡り、同社の沿革から業績・財務情報まで、同社に関する情報が詳細に記されており、改善する余地はもはやないと言えよう。